

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ とうきょうえんげきあんさんぶる 有限会社 東京演劇アンサンブル		
代表者職・氏名	代表取締役 津金洋子		
制作団体所在地	〒 352-0011		
	埼玉県新座市野火止3-16-24		
電話番号	048-423-2521	FAX番号	048-423-8738
ふりがな 公演団体名	とうきょうえんげきあんさんぶる 東京演劇アンサンブル		
代表者職・氏名	代表 志賀澤子		
公演団体所在地	〒 352-0011		
	埼玉県新座市野火止3-16-24		
制作団体 設立年月	1954年 12月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 津金洋子 取締役 小森明子	〈構成員〉 劇団員48人 俳優部44人 演出部1人 制作部4人	〈加入条件〉(俳優部)劇団附属俳優教室の卒業生もしくは2年以上の俳優経験者。運営委員会の推薦承認が必要。(制作部・演出部)運営委員会の推薦・承認。
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	太田昭
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	矢嶋敏恵

<p>制作団体沿革</p>	<p>1954年俳優座養成所の三期生を中心にした「チェーホフ研究会」が劇団三期会として設立。演出家の故・広渡常敏を創造の中心として活動を展開してきた。1957年、紡績女子労働者たちに取材して集団創作した『明日を紡ぐ娘たち』を上演、社会的にも大きな反響を呼び、この作品が劇団の演劇論を支える核となる。第一回岸田戯曲賞受賞。1970年、劇団名を「東京演劇アンサンブル」と改称。1980年、練馬区武蔵関に拠点劇場「プレヒトの芝居小屋」を構え、既成にとられない空間、演劇づくりを展開。このユニークなオープンスペースは、文化人の集う劇場としての機能を果たした。2019年諸事情によりプレヒトの芝居小屋を閉館、新座市に拠点を移し新たな稽古場・野火止RAUMを創造の源泉として活動している。1990年から定期的に海外公演を実施。これまでに11ヶ国22都市での公演を実現。日本の現代演劇を世界に紹介している。2006年5月、「プレヒトの芝居小屋」の活動が高く評価され、広渡常敏が倉林誠一郎賞を受賞。2007年3月、劇団が湯浅芳子賞を受賞。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>学校公演上演作品(～1965年より～) いやいやながら医者にされ(モリエール 作)／強制結婚(モリエール 作)／グスコーブドリの伝記(宮沢賢治 原作)／奇蹟の人(W・ギブソン 原作)／十二人の怒れる男たち(R・ローズ 脚本)／ジョー・ヒル(B・ステイビス 作)／真夏の夜の夢(シェイクスピア 作)／走れメロス(太宰治 原作)／木かげの家の小人たち(いぬいとみこ 原作)／夜の空を翔ける(広渡常敏 作)／銀河鉄道の夜(宮沢賢治 原作)／思い出のブライティンビーチ(ニール・サイモン 作)／テンペスト(シェイクスピア 作)／コーカサスの白墨の輪(B・プレヒト 作)／国語元年(井上ひさし 作)／おんによる盛衰記(木下順二 作)／セチアンの善人(B・プレヒト 作)／ラリー ぼくが言わずにいたこと(ジャネット・タージン 原作)／消えた海賊(広渡常敏 作) 年間50～80ステージ程度の学校公演を実施しています。</p>		
<p>特別支援学校における公演実績</p>	<p>文化庁公演により 長崎・希望ヶ丘養護学校『走れメロス』 文化庁公演により 滋賀・甲良養護学校『走れメロス』 平成25年度、島根・出雲養護学校『銀河鉄道の夜』 ほか ワークショップでは、石神井養護学校でのワークショップ実績あり。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>A</p>	<p>申請する演目のチラシパンフレット等</p> <p>申請する演目のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>有</p> <p>有</p> <p>https://youtu.be/TN-aaQaH0Og</p> <p>ID: <input type="text"/></p> <p>PW: <input type="text"/></p>
	<p>Aの提出が困難な場合</p>	<p>今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p><input type="text"/></p> <p><input type="text"/></p> <p>ID: <input type="text"/></p> <p>PW: <input type="text"/></p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 東京演劇アンサンブル】

対象	-	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	音楽劇 消えた海賊			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	作: 広渡常敏 構成・演出: 公家義徳 音楽: 林光 舞台美術: 池田ともゆき 照明: 宮田正芳 衣裳: 稲村朋子 振付: 菊地尚子 音響: 田村恵 合唱指導: 吉村安見子 宣伝美術: スズキコージ 舞台監督: 三木元太 制作: 小森明子・太田昭			公演時間(110分) 休憩あり
著作権	○	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	とある港町。戦争の足音が近づいていたある日、妙な海賊団が結成された。彼らは、国を飛び出してきた王子や神父・船大工・女たち、そして戦争から逃れてきた男たちだった。どこの国にも属さない、誰の持ち物でもない、独立自営の海賊たち。自由と平等を愛し、人殺しをしない、海賊らしくない海賊が、若さって何だ！ 自由って何だ!! と大海原に漕ぎ出していく。 2002年都民芸術フェスティバルで広渡常敏(作)と林光(作曲)の名コンビが生んだ作品を、今の世代のスタッフたちが意匠を変えて、ポップな弾んだ舞台に生まれ変わらせた。変形していく舞台、たっぷりの歌とダンス、カラフルな衣装で青春を謳歌します。パワフルな俳優たちのアンサンブルによる痛快な音楽劇です。			
演目選択理由	これは仲間づくりの過程を描いた作品です。自分の考えを口に出して少しずつ仲間になっていく海賊たちの姿は、内にこもりがちな生徒たちに勇気を与えています。他人の自由も考えられることが仲間づくりには必要なこと、男と女は平等だということ、命令をしないチームを作ろうということ、初めての選挙等々、民主主義の大根本を賑やかな音楽劇でわかりやすく綴ります。既に学校公演での実績があり、大好評であることも、演目選択の大きな理由です。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	①「海に歌う」全員の合唱 ②「マングース」歌の掛け合い ③船の完成までのカウント・アップ ④選挙のシーンに登場人物として出演します。⑤「恐ろしい海賊の歌」の間奏で、役者たちが10人ほどの選抜隊と通路を走り、そのまま舞台へあがり、ダンス。⑥「夜の海で歌われた歌」女性全員合唱。選抜隊は舞台上で歌う。⑦MCに誘われて、先生・生徒(各1人)が舞台へあがり、フリートーク。前半に参加シーンがあり、後半は落ち着いて観劇していただくように工夫してあります。ただし、新型コロナウイルス拡散防止の観点より、公演時のガイドラインに従った演出の変更の可能性があります。			
出演者	出演 雨宮大夢 小田勇輔 永野愛理 原口久美子 洪美玉 三木元太 仙石貴久江 和田響き 町田聡子 篠澤寿樹 ほか			
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 13 名 スタッフ: 7 名 合計: 20 名	機材等 運搬方法	積載量: 4 t 車長: 10 m 台数: 2 台	パン 6m

【公演団体名 東京演劇アンサンブル 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み		有	会場設営の所要時間		7 時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	18時	18時～21時	13時半～15時10分	10分	15時半～17時半	17時半
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		500人			
	本公演		500人			
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>指導者は4～5名で行います。2部構成にし、1部を全校児童・生徒で実施し、2部を選抜隊のメンバーで実施します。</p> <p>①芝居の流れの説明 ②みんなで声を出してみよう ③みんなでからだを動かしてみよう ④歌の練習「海に歌う」全員 「マングース」合いの手 「夜の海で歌われた歌」女性 ⑤選抜隊にダンスの振り入れ ⑥出演シーンの稽古 10～20人の出演予定です。 ⑦(時間が余れば)シアターゲーム?</p>					
ワークショップ 実施形態の意図	<p>最初の発声では、日常の声と、非日常の発声の違いを知ってもらいます。セリフ同様、歌うということも意識的に「身体を通して出る声」が、日常とは違うことを体験してもらいます。みなで体を動かすことにより、声だけでなく、他者とのコミュニケーションをどうとるかを意識してもらいます。全校児童・生徒と先生方も一緒に参加し、劇団員と声を出し動く中で、学校の日常生活では見る事ができなかったお互いの表情を見ることで、学校でのコミュニケーションの形にも変化を期待します。全校での参加により、より良い学校生活に貢献できるような事業になることを狙っています。演劇という芸術の本質的な魅力にじかに向かいあうことが大きな経験となります。</p>					
特別支援学校での 実施における工夫点	<p>事前の打ち合わせを学校とより綿密に行い、児童・生徒の状況を聞かせていただいたうえで、ワークショップの具体的な中身を一緒に創っていきます。ワークショップでは、学校で生徒たちが得意としていること、合奏(これまでの経験では和太鼓)などをきかせてもらいながら、本番の芝居に俳優とコラボレーションする場面を練習してみます。本番の公演を楽しみに待つゆったりした交流をし、また事前に会って仲良くなった俳優たちが舞台上で活躍することで、芝居の世界に入ってもらえることを意識していきます。</p>					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

TEE 東京演劇アンサンブル

自由を求めてたちあがる若者たちを描いた、にぎやかな音楽劇。



広渡常敏=作

林光=音楽

音楽劇

消えた海賊

公家義徳=構成・演出

TEE 東京演劇アンサンブル

〒177-0051 東京都練馬区関町北4-35-17 TEL:03-3920-5232 FAX:03-3920-4433

mail tee@tee.co.jp

http://www.tee.co.jp

ずっと昔。ヨーロッパのある国で戦争が始まるという。いくらお国のためとはいえど、戦争のためにじぶんの命を差し出すなんてまっぴらごめんだと、若者たちは考えた。そこで浮かんだある一つの解決策は死んだふり、神に召されたとなれば戦場にこのこ出て行くわけにはいかない、あの世に行った人間は兵隊にはなれない。

おなじ時代におなじ国で暮らしをたてる者ならば、考え方、感じ方の後ろにある景色はほぼおなじ。だから時代とともに流行だって常識だってルールだって生まれてくる。けれどみんなとおなじであることが正しいわけじゃないし、人間ひとりひとりの生き方はまったく違ったものなのだから、イヤなものにはイヤだとじぶんの意志を表明するのは、世間から見れば常識はずれなことだとしても、特別おかしいことじゃない。ということで、若者たちは戦争に行かないことを決意した。そんな若者たちの片棒を担ぐのは、神父アントニオ、葬儀屋で船大工のフェデリコ。アントニオは祈り、フェデリコはせっせと棺桶をつくる、そしてレンズ磨き職人のフルガンツィオは、今日もこつこつレンズを磨く。常識はずれの若者たちがたくさんいるよと神父アントニオ、友人カルルにささやいた。好奇心旺盛な若者カルル・ハインリッヒはボヘミアの王子さま、お金も知恵もたくさん持っているし、彼には大きな夢がある。カルル・ハインリッヒ王子はさっそくこの常識はずれの若者たちを仲間に誘って海賊をつくることにした。

海賊といえば海の荒くれものだ。逆らうもの、裏切りものは皆殺しを意味するドクロの海賊旗を頭上に掲げ、男のロマンは遠い海の彼方、宝探しの旅をする、海賊王を目指す。なんて言えばかっこよさそうだけれど、カルルのつくった海賊団はそうではない。扉はいつも半開き、出入りは自由でどんな人間をも排除

せず、この海賊には女性も乗り組む。自由であること、自由であることを怖れないこと、海賊は若さをつくりだし、新しいいうことをつくりだしていく。この海賊団のたったひとつの掟、それは人を殺さないこと。人殺しをしない海賊が世界を制覇する、これがかれらの理想、かれらの夢だ。おそろしい海賊をつくり、海賊以上の海賊をめざす。

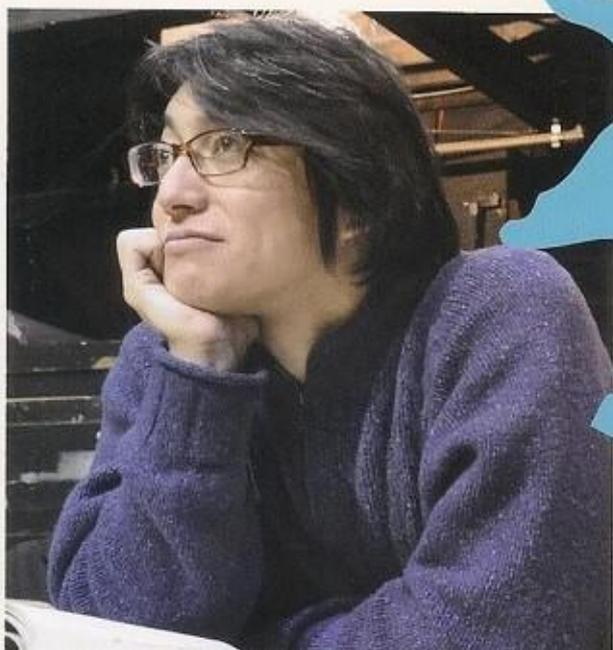
どんな理由があろうとも、人を殺さない。こんなあたり前のことを、小さなころからあたり前だと教えられてきたことを、約束できない世の中に、ボンとひとつの石つぶてを投げてやりたい。効き目があるとかないとか、そんなことはどうでもいい、地球はそれでもまわり続ける。ただ、どんな小さな石のつぶてだって、そこにきちんと“在る”ことが大切。それがぼくたちの目指す芝居、ぼくたちの在り方。理想主義が勝つか、現実主義が勝つか。憧れは、遠い世界の彼方にあるものではなく、いまを、この瞬間を精いっぱい生きることから始まるものだ。

“ぼくが求めているのは、ただ変化が可能だということを知ることなんだ。”という台詞がある。これはぼくが劇団で出会った最初の芝居、『かれら自身の黄金の都市』という作品からのものだが、もう20年以上も前に出会ったこの言葉は、いまでもぼくの心に焼きついて離れない。変化が可能だということを知ることが大切なんだ。『消えた海賊』というタイトル通り、海賊は消える。だがかれらの目指す生き方の、小さくも強い炎の輝きだけは決して消されてなるものか。どこにもありそうもない常識はずれでユーモラスな生き方を目指す若者たち、海賊たちの、かれら自身の新しい船出がやって来る。もう後戻りはできない。さあ、出発しよう。

消えた海賊

公家 義徳

(こうけ よしのりノ演出家)



夢

林光

(はやし ひかる/作曲家)



子供の本のコレクターで、子供時代についてすてきな回想を書いた作家、おとなになってもどこか子供っぽかった哲学者がいた。どうにも難しい本もたくさん書いたが、分かりやすくして誰でもなっとくするひとことがある。

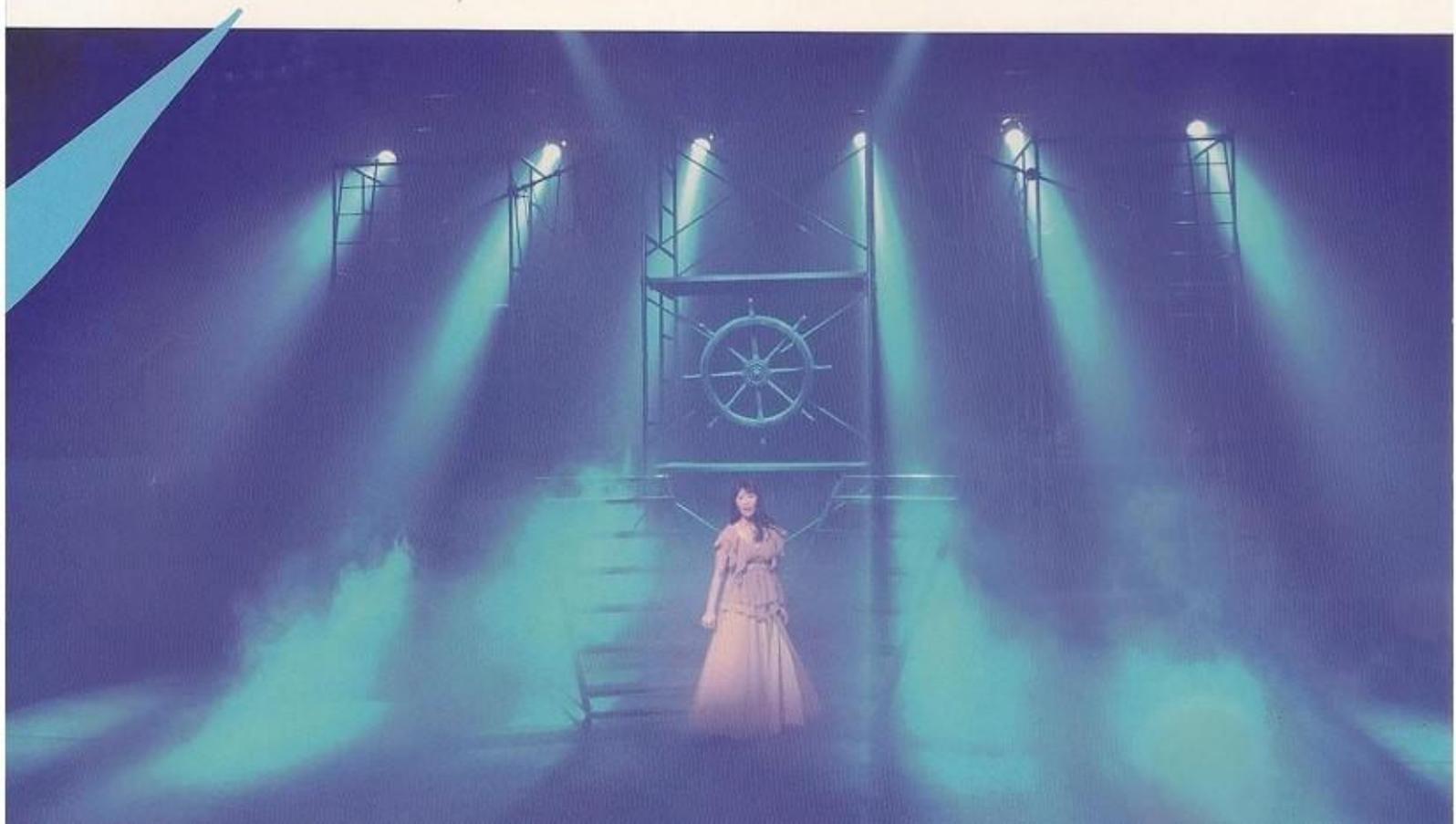
「子供がいちばん望んでいないものは、大人が子供用と考えるような描写なのだ。」(ヴァルター・ベンヤミン『昔の子供の本』一丘沢静也・訳一より)

もっとも、誰もがなっとく、というのは言いすぎかもしれない。あなたの、あるいはあなたたちのつくる舞台は、あたしたちには分かるけれど、子供には飛躍が多くてついて行けないんじゃないのかしらと、ぼくたちは言われて来たけれど、実際は、飛躍が多くてついて行けない(と思っている)のは、そう言っているおとなたち、親や先生で、連れてこられた子供たちは、舞台に合わせてかれら自身の思考をピョンピョンと飛躍させて楽しんでいることが多いのだから。

子供のための脚本家としての広渡も、あの子供っぽい哲学者の言うような「子供用」描写と早くから手を切った。「空の彼方にまで遠く腕を伸ばして何物かを掴もう」とする子供の可能性を信じて、かれらに挑戦しつづけて来た。

『消えた海賊』は、広渡がくりかえし舞台にかけてきた「共同体の夢」の最新版だ。この共同体では、「命令すること」が廃止される。王制の廃止、天国の廃止、搾取の廃止、階級の廃止、所有の廃止、報復の廃止、核兵器の廃止。いままでいろいろな廃止が叫ばれたが、命令の廃止はそれらを上回る大胆な「廃止」かも知れない。(ヨーロッパ語でいえば、それは同時に動詞の原型の廃止に通じるのだから。)

広渡の、そしてぼくたちの夢、しなやかで、いくらか理屈っぽくて、けっこう大人っぽくもある夢を、子供たちはどんなふうを受けとめてくれるのかしら。(2002年初演のパンフレットより)



音楽劇 消えた海賊

この海賊のモデルについて

1728年に文献として残っている。名前は“リバタリア”で、自由の国という意味。アフリカの東海岸、大西洋に面したマダガスカル島に根拠地があったといわれている。

文献によると、「民衆の権利と自由を油断怠りなく守るものたち」「金持ちや権力者の行く手をささぎる者」「虐げられたものために虐げるものたちに戦いを挑み」「正義が平等に分配される」などと書かれている。人種の差別もなく半分以上が黒人だったとも言われている。

「正義の分配」では、例えば戦った相手の海賊の首領を裁く時に、その手下から彼の首領としての所業を聞き、評判が悪いと処刑し、評判が良い場合は金品を与えて解放していたという。

これらは文献として残ってはいるが、そこには推測も含まれているらしい。

……堀田善衛さんが広渡常敏に語った海賊の話は、恐らくこの海賊のことを指すのだろうと思われる。

(参考文献:『図説 海賊大全』東洋書林)

スタッフ

原案——堀田善衛
作——広渡常敏
音楽——林光
構成・演出——公家義徳
舞台美術——池田ともゆき
振付——菊地尚子
衣裳——稲村朋子
照明——宮田正芳
音響——田村恵
宣伝美術——スズキコージ
舞台監督——三木元太
制作——小森明子
太田昭
辻尾隆子

キャスト

カルル——ボヘミヤの王子
アントニオ——神父
フェデリコ——葬儀屋、実は船大工
フルガンツィオ——レンズ磨き
ピヤアンジェリ——カルルの妹
マルガリータ——貴族の娘
レイチェル——酒場の女将
ズッペ——あらくれ海賊の首領
若い女たち男たち

徴兵拒否の若者たちが集まって……

——オレたちを厚い壁がへだてている。オレたちは厚い壁にとりかこまれている。その壁をぶち破るんだ。

海賊の首謀者たちが集まった酒場「黒薔薇館」にて

——ホラ、おかみさんの嫌いな戦争がおっ始まりそうだろう、テロは邪悪だ、こっちは正義だなんて、戦争をやりたがる国がある。若者たちは兵隊に狩り出されるのが嫌なんだ。考えたもんだ、今どきの若者は。

そこへカルルの妹と恋人が乗り込んできて、

恋人のマルガリータもおかみさんも乗組員になることに。

——われらの海賊は自由の王国、ぼくの夢、ぼくのロマンだ。どこの国にも属さない、誰の持ち物でもない、独立自営の海賊だよ。

——どうということ？

——じぶんたちの未来はじぶんたちで創り出すということかな。はじめから目的があるんじゃないというわけだ。

夜、乗組員たちはそこここで語りあう

——女はロマンなんてないの。理想があるの。ロマンじゃなくて理想よ。それもいつの日にかではなく「いま」なの、いまを理想に生きるの。男たちは権力を夢みるけど、女はいまを美しく生きるの。

船の名前はマングース号に。

そして選挙とくじ引きで女船長ゾフィーが決まった!!!

——人殺ししない海賊になる、これまでになかったことだわ。

荒くれ海賊団に勝利したマングース号

——戦争で人を殺せば褒められて英雄になり、平時に人を殺せば殺人犯として罰せられるという、バカげた常識をわれらがひっくり返したんだ。

初めての勝利のあと、恋の花が咲き始める……

——レイチェルさん、マングース号はこれまでにない、美しい夢を掲げた海賊です。これで世界が変わるかもしれないが、風紀を乱してはならんのです。

——男性と女性が愛し合うと、風紀が乱れるんですか？ 愛は自然そのもので美しいことなんじゃありませんか？

——よく言うじゃありませんか、愛は盲目だって。マングースは眼を大きく見開いていなくてはなりません。

根拠地となる無人島に上陸したマングース号

——新しいことばよ、マングースに必要なのは。

——新しいことば？ どういうの、それ？

——命令形のないことば、というのはどう？ 人が人に命令しないの。

——命令しないのか！

——やってみようよ。主人と奴隷の関係を人類からなくしてしまう、最初の試みだよこれは。

——人類はこの地球上にいちばんおくれてやってきた動物だ。動物たち、それに昆虫たちが進化をつづけているのに、ヒトだけは進化を止めてしまっている。人間が人間以上のものをめざすというのは、新しい進化だよ、これは！

連戦連勝をつづける新しい海賊マングース号を壊滅させようと、オランダとイギリスの連合艦隊がやって来る……

■ TEE 東京演劇アンサンブルとは

「何処の岸辺にたどり着くのかも知らずに岸辺を後にする船乗りたちのように、不安と憧れを抱いて未知の領域に飛びこんでいくことが「自由、だ。」演出家・広渡常敏（1927～2006）はブレヒトに憧れ、1954年の創立以来一貫して、既成の自分にとらわれずに未知の自分に向かうことを要求してきた。ナイーブに、真実の感情で、自分自身を投げ出すとき初めて知る自分自身、他者との出会いを、どの瞬間にも求めている。創立以来60年以上、私たちの劇団は、愚直に、人間は変化しようということを信じて芝居をつくってきた。

■ ブレヒトの芝居小屋を根拠地として

2006年5月、広渡常敏は「倉林誠一郎賞」を受賞。長年にわたる「ブレヒトの芝居小屋」の運営と、優れた作品を作り上げた姿勢と成果が評価された。プロセニウムのないオープン・スペース、ブラックボックス、客席数可変の前衛的な劇場。練馬のはずれにあるこの小劇場から、時代と世界に向きあった演劇活動を生み出し、日本そして世界に発信している。ここは、私たちの創作の場であり生活の場であるだけでなく、さまざまな人々の交差する「街路」のエネルギーに溢れている。演劇上演のほか、講演会や学習会、憲法集会、映画会、展覧会などが積極的に行われている。

■ 多彩な海外公演

1990年から定期的に海外公演を行っている。これまでに11カ国21都市での公演を成功させてきた。『桜の森の満開の下』は、ニューヨーク、ソウル、ロンドン、ダブリン、シビウなどで上演してきた。男と女の氷を抱きしめたような愛の凄絶な風景は、言葉の壁を越えて、普遍的な問題として世界の観客の胸をとらえた。『かもめ』をチャーホフ記念モスクワ芸術座で上演、『ガリレイの生涯』をブレヒトの本拠地ペルリーナー・アンサンブルで上演。チャーホフに憧れブレヒトの演劇論を実践してきたTEEの現地での公演は、わたしたちの続けてきた仕事の真価を問い、成果を示す公演となった。ほかに『沖縄』イタリア、ベトナム公演、『銀河鉄道の夜』『走れメロス』韓国公演、『セチュアンの善人』ベトナム公演を行っている。今後も精力的に世界の観客と出会う旅をつづける。

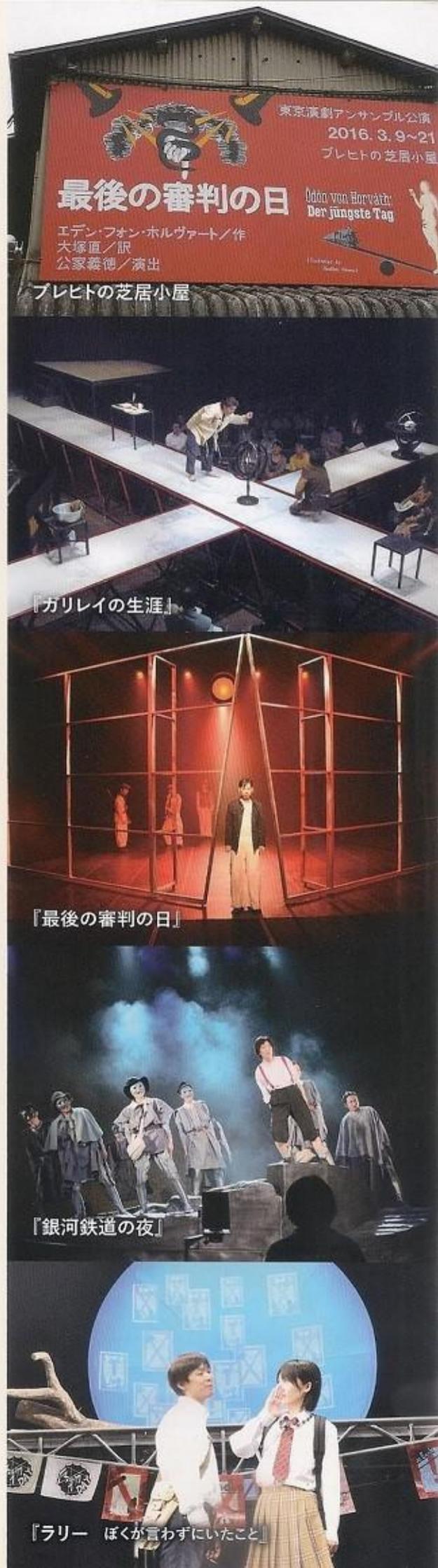
■ 国内での公演活動

ブレヒトの芝居小屋で行われる本公演を中心に、全国各地での公演活動を展開している。2006年、劇団代表で創造の核であった広渡常敏没後は、劇団内外の演出家とともに、新しい集団を創りなおそうと試行錯誤してきた。近年は、劇団創立60年記念公演として『屠畜場の聖ヨハンナ』（ブレヒト）『無実』（ローアー）『第三帝国の恐怖と貧困』（ブレヒト）『最後の審判の日』（ホルヴァート）に取り組み、新旧のドイツ演劇に学びながら、現代を捉えた舞台を生み出しつづけている。

■ 市民劇場・学校公演・おやこ劇場

1960年代から、高校生・中学生のための演劇教室を続けてきた。授業数確保のためにと各地で芸術鑑賞教室自体が姿を消すなか、形や数字にすぐに表れなくとも芸術や文化がいかにかに人を育て、心の豊かさを育むかということに、教育現場がどうかビッドであり続けてほしいという願いを胸に、各地の先生方との出会いを大切に公演を続けている。『走れメロス』『銀河鉄道の夜』『奇蹟の人—ものには名前がある』『目をさませトラゴロウ』『ちゅうたのくうそう』『おじいちゃんの口笛』など、永く記憶に残る作品を数々生み出している。

2009年初演の『ラリー ぼくが言わずにいたこと』は、ネット社会に翻弄される若者を描いた現代劇として全国ヒット。今回の『消えた海賊』は、公家義徳による2作目の学校公演作品となる。



ブレヒトの芝居小屋

『ガリレイの生涯』

『最後の審判の日』

『銀河鉄道の夜』

『ラリー ぼくが言わずにいたこと』

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	H106	分野	演劇	種目	演劇	ブロック	H	区分	A区分
公演団体名	東京演劇アンサンブル				制作団体名	有限会社 東京演劇アンサンブル			

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談	
控室について	必要数 *	2室	条件		1室は大きい部屋で、もう1室は女性の着替え用です。パーティションなどあれば対応可。			可	
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			中型バス	1台	4tトラック	1台	不可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							/	
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			4tトラック 長10m×幅2.5m×高3.3m					
	搬入車両の横づけの要否 *			要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			100m以内				可	
	搬入経路の最低条件			・できる限り階段のない経路が望ましい。 ・屋根のある経路が望ましい。				可	
	理由			鉄骨などかなり重い大道具を搬入するため。				/	
	設置階の制限 *			問わない					
	搬入間口について 単位:メートル		幅	2m	高さ	2m		可	
WSについて	参加可能人数	500名程度						可	
	学年の指定の有無 *	なし	指定学年 *					可	
	所要時間の目安 単位:分	小学校90分 中学校100分						可	
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。				/	
	鑑賞可能人数			500名程度					
	舞台設置場所 *			フロア				不可	
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	11m	奥行	11m	高さ	8m	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			要				可
		舞台袖スペースの条件 *			4m×11m				可
		緞帳 *		不要		バトン *		不要	
	遮光(暗幕等)の要否 *			要	理由	暗転があるため			可
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。				可
		ピアノの事前調律 *		不要				可	
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可				可	
	公演に必要な電源容量			100A	※主幹電源の必要容量			可	
その他特記事項							応相談		

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	2m	高さ	2m
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		100m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

